



小学校の部

環境大臣賞

団体名・グループ名

ひがしじょう

長野県長野市立東条小学校

審査委員の評価のポイント

保護者や地域の協力を得て、ホタルを育て守る活動を20年間継続している。ホタル委員会とクラスが役割分担し、全校をあげて飼育や河川の清掃活動に取り組んでいることが高く評価された。子どもたちが自分の言葉でつづった詳細なレポートから、ホタルや地域の環境に対する深い愛着が伝わってくる点も評価された。

活動の場所

・学校周辺、地域河川、地域周辺

活動したこどもの人数

265名、全校生徒

活動したこどもの学年

全校生徒

活動継続年数

20年以上

主な受賞歴

なし

活動グループ（学校・団体）の紹介、活動頻度

本校は周囲を山に囲まれる等、自然豊かな環境の場所にあり、ホタルを中心とした環境教育を20年以上続けている。中でも、ホタルを育て、守る活動については、年間を通して行っている。育てる活動は、各学級でホタルの幼虫を育て、放流したり、えさとなるカワニナを地域の河川でとったりする等を行っている。守る活動では、ホタルの住む川を守るために、地域の河川清掃等に取り組んでいる。これらの活動を通して、子どもたちは7月のホタル観察会で心待ちにしたホタルと再会し、これからも地域の自然環境を大切にしたいとの思いを強くしている。

活動の概要（活動の経緯も含めてご記入下さい）

○ホタル幼虫放流式・ホタル幼虫放流（4月）

・全校でホタルを育ててきた思いを語る「ホタル幼虫放流式」を行った後、各学級でホタルの幼虫を校内の用水路、地域河川に放流する。

○全校ゴミ拾い（6月）

・ホタルの住みやすい河川を守るために、全校で地域の河川や用水路の清掃を行う。

○ホタル観察（6月）

・ホタルの出現する時期に、全校の子ども、保護者、地域の方と共にホタルを観察する会を開く。

○河川清掃（7月）

・地域の河川をきれいにするために、3年生以上が河川清掃を行う。

○ホタルの捕獲、産卵（7月～8月）

・産卵床の作成、捕獲したホタルの飼育、ホタルの産卵等、ホタル委員会等中心に活動する。

○幼虫の飼育（7月～11月）

・ホタル幼虫引き渡し式まではホタル委員会等が中心になってカワニナ捕り、水替えなどの飼育。

○ホタル幼虫引き渡し式（11月）

・ホタル委員会等で育ててきたものを各学級へ引き渡し、これ以降は各学級で幼虫を飼育する。

団体名・グループ名

長野市立東条小学校

活動の場所（様子や環境など）

本校は周囲を山に囲まれるなど自然豊かな環境の場所にあり、ホタルを中心とした環境教育を20年以上続けている。

なかでも、ホタルを育て守る活動については、年間を通して行っている。育てる活動では、各学級でホタルの幼虫を育て放流したり、えさとなるカワニンを地域の河川で取ったりお箸を行っている。

守る活動では、ホタルの住む川を守るために、地域の河川清掃等に取り組んでいる。これらの活動を通して、わたしたちは7月のホタル観察会で心待ちにしたホタルと再会し、これからも地域の自然環境を大切にしたいとの思いを強くしている。

タイトル

ホタルさんを1年を通して育て守りたい

活動を始めたきっかけ（興味を持ったことなど）

今から20年くらい前、わたしたちのお母さん、お父さんが小学生くらいだった頃、東条小学校でホタルの活動が始まりました。藤沢川の河川工事からホタルの住む場所を守りたいと願い、活動をはじめたのがきっかけです。それから、毎年、ホタルの棲む川をきれいにしたり、幼虫を育てたりお箸など学校でホタルの活動に取り組んでいます。

今ではホタルを守り育てることがわたしたちの大切な活動になっています。

活動の目標（やってみたいと思ったことなど）

1年間の活動を振り返りながら、1年間のまとめをしてみたいと思います。そこから、わたしたちのホタルへ寄せる気持ちがいかに深くなるを感じたからです。

また、今までに東条小学校では本を2冊出しています。その本を読みながらお父さん、お母さんたちがどんなことをしてきたのか知りたいと思ったからです。

はじめに

これまで学校の中にホタルの幼虫を放流することができる水路をつくったり、長野ホタルの会の三石暉弥先生にご指導していただき、東条のホタルの生きやすい場所にある活動に取り組んできました。

今ではホタルがわたしたちの宝物と思えるほどになっています。これからわたしたちが取り組んでいる1年間の活動の様子を紹介しまあ。

○4月 幼虫放流式

全校集会で幼虫放流式を行い、育ててきたホタルの幼虫やホタルへの思いを発表します。

・冷たい水の中で、元気でたくさんのカワコを食べてみるみる大きくなったホタルさん。私が3年生の時、ホタルを飼育して「はみが大きくなるんだ！」とびっくりしました。今年のホタル観察会で、心も体もホカホカになるような優しく気持ちのいいホタルの光を見たいです。(4年)

・私はホタルを育てること命の大切さを感じました。理由は、ホタルの幼虫が1匹死んでしまっ、すごくショックを受けたからです。今度は1匹も死なせたくないと思、たので、えさをたくさんあげたり、水木槽の中をちゃんと清掃したりしました。

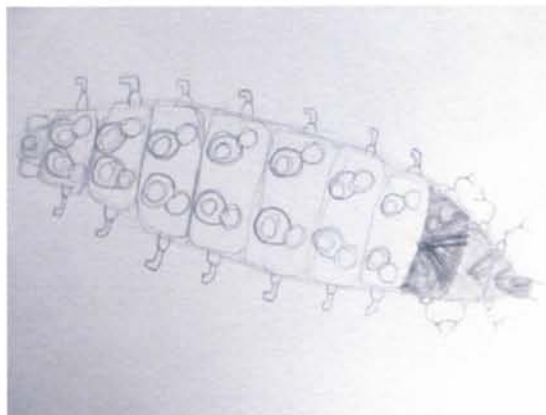
私は、昔みたいにくさんのホタルが飛んでほしいです。たくさんホタルが飛ぶととてもきれいだと思、います。そのためには道や川にゴミを捨てず、きれいにしておく事が大切だと思、います。学校や地域のみなさんに協力してもらい、たくさんホタルを昔みたいに観てみたいです。(5年)

・ホタルの幼虫を久しぶりに見て、幼虫の小ささに驚きました。でも、ホタル観察会の時にはもっと大きくなっているんだと思、います。成長したホタルをはやくみたいです。(3年)

今までクラスの中で、水槽やタッパーで育ててきた幼虫を、東用水路、藤沢川に放流します。1年生にとっては初めて、6年生にとっては最後の放流会になります。放流する際に、「ホタルさん、きれいな光を見せてね」と気持ちをこめて放流します。今まで育ててきた幼虫とはホタル観察会までお別れです。スズキ(はたり)糸紙で書いたホタルにまた会えるのを楽しみにします。



クラスで幼虫を分けている様子



ホタルの幼虫のスケッチ



「きれいな光を見せてね」～放流の様子～ 「ホタルさんもきれいなところが好きだよね」

05月 全校ゴミ拾い

藤沢川や東用水路、学校周辺を綺麗にするために、空き缶、お菓子のくす紙、ペットボトルなどのゴミを、広い場所の隅から隅まで、きまぎら確認おろかのように探します。「ほく、わたしたちの住んでいる場所をきれいにしたい！ホタルさんにキレイな場所で光、てもらいたし」という気持ちでゴミを拾います。

06月 ホタル観覧会

6月にはいよいよ待ちに待ったホタル観覧会です。4月に放流したホタルが、わたしたちの前にもどってきてくれる時です。朝からワクワクしながら観覧会を待ちます。ホタル観覧会では、登校班毎ホタルの数を調べながら夜学校に集まったり、ホタルのでる場所に観覧しに行ったりします。昨年度は200匹くらいのホタルを観察することができました。今年はもっとたくさん見れるといいと思います。登校班毎調べてもらったホタルの出現数はホタル委員が、ホタルマップで発表します。この観覧会の出来事は、みんなもどきわたしたちの心に残っています。

6月22日にホタル観覧会がありました。私は班長です。今年わたしの班には1年生が2人います。そのうちの1人がホタルを見たことがないと言っていました。だから、学校に行くとたくさん光を見てあげたいと思いました。

温泉団地を出発し学校に向かいました。学校の近くの田んぼに数匹いました。学校に着き、西用水路に行くと、ホタルがたくさんいて、とてもきれいに光っていました。東用水路でも、ホタルたちがいろんな所について、見つけるたびに、うれしくて大声を出していました。



「ホタルさんが手にとまった」

私は今年もホタルのきれいな光をたくさん見ることができました。1年生もとても喜んでくれたのでとても嬉しかったです。
このホタルは私が去年ホタル委員会の時に一生懸命育てた幼虫なんだ。こんなにきれいに光、てくれている。あー、育ててよかったー。」と思いながら見ていました。
(6年)

わたしたちはホタル観覧会での思い出を大切にしました。

6年生は、短歌にして自分の気持ちを大切にします。

- ホタルくん ひかりをみせて とんでゆく
どいへいのか 教えておくれ
- ホタル飛ぶ 夏の夜空に 光、てる
明日も飛ぶのか 夏のお祭り
- 毎年見ると 思っても
一年ごとに変わる光 今年は何んか光かな
- 月にてれ きれいに光る ホタルでね
心がなんだか かなおになつた
- ぶんわりと ホタルがとんで” うれしいな
わたしのころ ひかりのほかに

ホタルは、2週間くらい見ることができるといいます。ホタル観覧会のおとも、お家の人とホタルを見に来る人がたくさんいます。

○ 7月

ホタル観覧会が終わると7月に全校で河川清掃を

行います。ホタルのいる川をきれいにし、ホタルの住みやすい場所を育てようということから毎年行っています。ホタルの卵もあるので川の中では注意して清掃します。



「いた、いた」(信濃毎日新聞より)

河川清掃を行います。木の枝や草の葉を片づける時に、思わぬほどたくさんあるのですが、何となく片づけることができた。ホタルの住みやすい場所になったかなと思いました。
(5年)



「ホタルさんの住む川をきれいにしたい」

河川清掃が終わると同時に、捕獲したホタルの成虫から幼虫が産卵します。今年は2400匹近くの幼虫が採れました。ホタル委員会が中心となって11月に行われるホタル幼虫引き3度式まで世話をする。今年は3年生も一緒に取り組んでくれました。その活動を紹介する。

〇産卵床・箱の準備、産卵

産卵床の作成は3年生が分担しました。産卵床といふもむづかしいので3年生は「ホテルさんのベッド」という名前で呼びました。コケが川というのを聞いて、学校の中のコケを取り、それを糸用の上におさまがはいるように置きました。また、それを



「優しくコケを置くんだよ」

も産卵箱の中に入れてみたが、なかなか入れづらくて大変でした。

夏休みに入る前にたくさんのお虫が生まれました。

夏休み中は先生が管理をしていましたが夏休み明けからはホテルンジャー3年生で管理をしていきました。

みんなの数を数えてみると2400匹以上のとてたくさんのお虫が生まれていてとってもうれしかったです。



「早く生まれないかな」



一匹ずつスポイトで取りながら数を数える様子

お虫が産まれるとその後はえさのカワニナとりです。カワニナは、藤沢川、松井の泉、学校の田んぼなど「ぼくたち、私たちの住んでいる所にたくさんいます。カワニナを取りやすいように1人1個ずつペットボトルをもってカワニナ取りに行きました。たくさん食べるので1回ではなく、何回もカワニナ取りに行きました。



松井の泉でのカワニナ取り



学校の田んぼでのカワニナ取り



「カワニナたくさんとれたよ」



「幼虫さんたくさん食べてね」

- 今日カワニナを取りに行きました。カワニナはいいはおいしかったです。またとりに行きたいです。(4年)
- 今日カワニナを取りに行きました。足がぎんぎんしたけどカワニナがたくさんりました。カワニナは冷たい水が#好きなんだと思いました。(3年)

〇11月 ホタルムカ虫引き渡し式

今までホタル委員会などで飼育してきたホタルのムカ虫を、各クラスに引き渡す時です。ホタル委員会としては少しさびしいですが、これからは各クラスでムカ虫を来年度のムカ虫放流会まで飼育していく事になります。

今年は2000匹以上のムカ虫が生まれました。各クラスの水そうには140匹以上のムカ虫を入れてあります。

今までホタル委員会では、ホタル当番で飼育してきましたがこれからは各クラスで飼育をしてください。カワニナ取りも大変ですが、忘れずにお願ひします。(ホタル委員会)



ホタル幼虫引き渡し式 (全校集会)



ホタル委員会から各クラスへの引き継ぎ



ホタルの幼虫の教室への引っ越し①



ホタルの幼虫の教室への引っ越し②

幼虫引き渡し式が終了すると、各クラスでは、早速水そうに入った幼虫を見つめる人がたくさんいます。クラスに水そうを移動しました。後は、カワナを取りに出かけます。



今年の活動～ホタル室前～

- ・私はホタルを育てるのが好きです。一生懸命育てます。来年はきれいな光を見れたらいいなと思います。ホタルさん、来年はきれいな光を見せてください。(3年)
- ・カワナをたくさん食べて、ぐんぐん大きくなって下さい。そして夏になったらすごくきれいな光を見せてください。ぼくは楽しみにしています。夏まで元気を付けてください。(3年)
- ・ホタルの幼虫さん、カワナをたくさん食べて、大きくなって、きれいなホタルになってね。楽しみにとぶのを待っているよ!(3年)

ホタルの活動の一年間の紹介をしてきましたが、活動の中で気づいたことがあります。毎年ホタル観察会の近くなると「今年はホタル出ますか?」「ホタルどうですか?」「ホタル楽しみにしています。」と地域の方が声をかけてくれます。また、カワナ取りに行くと「東条小学校はホタルでがんばっているんだね。」と言われる。そういう声を聞くとうれしいと思います。また、わたしたちの活動は地域の方に支えられているんだなぁと感じています。

地域の方も学校と同じようにホタルを大事にしてくれていてわたしたちは、おごうれしく感じます。

20年くらい前から始まったホタル活動ですが、この間には中庭を整備してホタル水路を造ったり、地域の方に「ホタルの活動場所を守ってくださいね」などのお願いをしたこともあったそうです。

そういう経緯の中でわたしたちの活動が成り立っていると思うとホタルの活動の長い歴史を感じます。また、全校、地域の方との連携で行えるということはすごいことだと感じています。

「東条」の東条小学校の歴史を感じながら、ホタルさんたちと大切にしたいと思います。

ホタルと過ごした日々

ぼくは、六月と夏ホタルの卵をふかせるために、ホタルを取りにいきました。ホタルの気持事も考えることがあつた感じがしました。でも、ぼくは「しょうが」がないと思います。ぼくたちの手で、東条にホタルを広げたのです。

そして、1日1日が過ぎていきました。なんと黄色い卵をたくさんこけの戸にうんでくれたのです。ぼくは、この卵をしっかりと育てると決心しました。幼虫がの戸から出てきました。ほんの2mm程度しか見えませんが、ぐんぐん大きくなって欲しいと思いました。次の日から入さのカワナを取りに行きました。カワナとってモ幼虫の体の大きさに合わせて本当に小さなカワナを取らなくてはならないので、とても大変な仕事でした。そして何日過ぎ、水槽に幼虫を移しました。その後ぼくたちは水をあげて水槽の水を換えるのをあきらめませんでした。だから幼虫たちが死んでいてぼくの目標が達成できなくて残念でした。もっとぼくがくせいののは幼虫一匹一匹の命をこわした事です。ぼくたち人間も一人一人に命があります。幼虫も人間にたとえたら多くの方が死んでいくのと同じです。だから今度からは地球上にいる生物を大切にしていきたいです。

平成十年度後期ホタル委員長

今日はホタル観察会の日、第1回の際はあまり川の方にいなかったけど、
第2回の今回は歩いていったらすぐ見つけた。ホタルはみんなヘイテホタルだった。
あちらこちらにいて、言葉をしているようだった。ずうっと歩いていくとどんどんホタル
がいた。ホタルの団体を、見ているとダイカモンドに見えた。下の川の方へ行くと、
ゲンジボタルがいっぱいいた。でも、私はおどろかないよ。だって、ホタルがいる
んだもの。いっぱい、ホタルがいてうれしかった。東冬もきれいな川なんだな。

(平成十年度 五年)

去年家の前の川には1、2匹しかいなかったのに、今年の観察会では4匹も
いました。その後も見に行くと、すぐ近くの花や木にとまっていて私は感涙交
しました。大きな川には外灯があったり深かったりするせいか2匹しかいません
でした。外灯をなくせば「増えるかもしれないけど、暗い夜は人にとって困る事
もあります。考えてみると、昆虫も植物も人も住みやすくなることは必ずかしい
ことです。今「海をうめる川をくずす。」と勝手に決めるのは人間です。他の生き
物の身になって決めていってほしいな。

(平成十年度 六年)

六月二十九日にホタル観察会がありました。私達が行った所は四匹しかなくて残念
でした。今年がダメでも来年は、は91出てきてほしいな。と思いました。でも次の日の夜
学校へホタルを見に行ったら二十二匹もいたので私は安心しました。帰るとき、ある家
族に会って袋を持っていたので「何につかうんだ？」と私のお父さんが聞きました。答えたの
は、向うのお母さんでした。「これにホタルをつかまえて飼うんだよ。」と言ったので「お父さんはど
なってしまう。子ども達はどんな気持ちで育てたか、思っているんだ。」その時私はドキッしまし
た。でも帰って、お父さんが「ちょっと言いすぎたかな。」と言っていました。お父さんもホタルがいなくな
たらさみしいんだな。と思いました。

(平成十二年度 二年)

「きれいだなぁ」と見ているのはホタル。あのきれいな光を見られるまでにはメスが卵を産み、次に卵
からエカ虫が生まれ、さなぎになってやると成虫になるので、ホタルさんはすごく大変だ。と思います。
人間も新しい生命が誕生したときはとっても嬉しいです。だからホタルも卵を産んだ時、
自分は死んでしまうけれど赤ちゃんは受けた命を大事に元気に育ててほしい。思っていると思
います。私は東条に住んでいて本業によからな。と思います。網に囲まれて川も多し空気も
いいし、事故もないし何よりホタルがたさん住んでいるからです。今度藤沢川に見に行く
けど、たさんいるといいです。藤沢川の道路が広くなったけど、私はホタルが「増えほ
しい」と考えています。「あ、ホタルだ」という声をおと聞きたいな。

(平成十四年度 六年)

活動で工夫したこと、困ったこと

- ・各教室で幼虫を育てやおりようにタッパーを水そうで育てるようにして、ホタル委員会では委員のみんなにホタルの幼虫の世話の仕方、タッパーのそうじの仕方などを教室のみんなに伝えました。
- ・ホタル観察会の前にはホタル委員とホタルウォークラリー(低学年用・高学年用)を作り全校のみんなにクイズ形式でホタルのことをたくさん知ってもらえるようにしました。「ホタルのことがよく分かった」「楽しかった」と全校のみんなに言われました。ホタル委員会で各クラスのカーワニの量を見て少なくなっている時には全校にお昼の放送で「カーワニが少なくなっているので取りに行ってください」と伝える放送を聞いてカーワニを取りに行くクラスが多くありました。カーワニを取るのが大変でしたがピンセットを使いながら上手に取れました。

活動で気づいたこと、感じたことやおもしろかったこと

- ・ホタルの幼虫がカーワニ取りができてうれしかったです。
- ・私たちの活動は地域の人にも支えられているんだなあという事を感じました。例えば、学校の前のガードレールや交通安全の看板にホタルがあるのは、そのなんだなあと改めて感じました。



学校の前ガードレール

ホタルの活動で気づいた事や感じた事はホタルを幼虫から育てて出て出た瞬間の時ほどうれしかった。ホタルが光を見た瞬間はとてうれしかった。ホタルがいなくなっていたのでもっとうえてほしいと思いました。

活動からわかった課題

ホタルの活動でおかたことは、ホタルは巻数が少ないことです。ホタルは、もしも水のほうが好むので水そうをキレイにしたり、エサのカワニナを入れたりします。カワニナを取るのも、大変です。ホタルを飼うので、ホタルのことを理解しようとホタルを調べたり、見て感じたことをまとめたりしました。言いたいこと、分からなかったことまで分かるようになりました。おもしろいことも、たくさんありました。ホタルもホタルを苦勞しているんだなと思いました。ホタルの幼虫を放流して観察会がある時に、キレイな光を照らして、楽しんでみるホタルを見ることができてよかったです。

活動でわかった事は、水がきれいな所でないとすめないという事と、成虫になって1、2週間しか生きられないという事です。なので川や池などをよごさないようにしたいです。成虫になってせいぜい、1週間しか生きないホタルが、この後もいつまでも東条で見られるといいなと思います。

自分たち、子どもホタルレンジャーにできること

私にとってホタルについて自分たちでできることは、まず川をきれいにしてホタルがすみやすいかんきょうを作ることです。なぜかという、ホタルは幼虫の時にきれいな川にすむためよごれている川にはすまないので、ゴミを、カニヤゴミを、ホタルがすまないようにしたり、すてあるゴミを見つけたり、ちゃんと拾いたいと思います。また、地域の人と協力して、川の周辺のゴミを拾いやホタルを守る活動をやりたいです。

また、ホタルが幼虫の時期に、川に入らぬように、石を投げないように気をつけたいです。

ホタルがすみやすい川に、速い川の流れてきてくれないようにしたいと思います。そして上陸してホタルになる時用の土が少なすぎたら、せわがいの土をもってきていれてあげたいです。

大人の人と一緒に、改善していきたいこと

私が大人の人と一緒に改善したいことは、ホタルの住む川や川の周りなどのゴミ拾いをやるようにすることです。理由は、学校でホタル観察会をやった時に、私は去年のほうがたくさん飛んでいたのに、なと思うことがありました。なのでホタルの住みやすい川にしたいです。もう一つは、ホタルが住む川を工事してホタルが住みづかい川になってしま、た川などがあるので、ホタルの住みやすい川をそのまま残せるようにしたいです。そのために、もしも工事をしてしまった川でも、小さい木の丸太などを、おいてあげるなどにホタルが住めるかんきょうにしてあげたいです。